

ヤマセミを未来へつなぐ調査

6/7

生息環境を見つめ、共に生きる

町の鳥であるヤマセミを通して大井川の現状を知り、人と自然の共生について考える「ヤマセミ生息一斉調査」が、6月7日に実施されました。今年で3回目の開催です。当日は町内外や県外から29名が参加し、毎年参加する人の姿も見られました。参加者は大井川流域の9地点に分かれ、河原を中心に調査を行いました。

鋭く澄んだ鳴き声が特徴のヤマセミは、生息していても姿を確認することが難しい鳥です。参加者は双眼鏡を手に耳を澄ませながら、魚影や水生昆虫の様子、営巣に適した土手の有無、河原のごみの状況などを観察しました。午後には調査結果を持ち寄りグループワークを実施。ヤマセミを始め、人やさまざまな生き物が暮らしやすい環境を守るために何が出来るか意見を交わしました。

今回の調査ではヤマセミの姿は確認できませんでしたが、カワウやカワガラス、稚魚の群れ、ミヤマカワトンボなどが確認され、大井川には現在もヤマセミが生息できる環境が残されていることが確認されました。

この取り組みは、「ヤマセミプロジェクト」として、ユネスコエコパーク登録10周年を契機に始まりました。昨年3月のエコティかわね解散に伴い、本年度からはまちづくり観光協会が事業を引き継ぎ、かわねヤマセミクラブの協力のもと開催しました。クラブ代表の澤本等さんは、「生息状況の把握には、いつ、どこで見かけたかを記録し、情報を集めることが大切。ぜひ情報提供をお願いします」と語りました。

かわねヤマセミクラブ

Eメール：kawane.yamasemiclub@gmail.com



耳を澄ませながら双眼鏡で姿を探す



各地点の調査状況を共有



町内外から多くの人が調査に参加しました

「やさしい日本語」を学びませんか？

町でも外国人住民や観光客が増加しています。誰もが安心して暮らし楽しめるよう、多文化共生推進事業として「やさしい日本語」を学ぶ講座やイベントを開催します。みんなでやさしい川根本町をつくりましょう。



開催日	内 容
9月5日(土)	料理による交流(ベトナム料理)
10月8日(木)	スポーツによる交流 練習日(クリケット)
10月15日(木)	スポーツによる交流 大会(クリケット・川根杯)
11月1日(日)	ディワリ(インドのお祭り) in 川根本町【産業文化祭】
11月13日(金)	外国人に伝わるやさしい日本語コミュニケーション講座(応用編)
12月12日(土)	料理による交流(日本郷土料理)

【問】株式会社KAWANEホールディングス ☎0547(59)3830

親子で学ぶSNSの安全利用

6/15

三ツ星学園で身近なネットの危険を学習

三ツ星学園の全校児童・生徒と保護者を対象に、島田警察署生活安全課の鈴木巡査長を講師に迎え、親子メディア学習会を開催しました。

会の後半では、各家庭でSNS使用のルール作りを実施。1日のゲーム利用時間などを親子で相談する姿が見られました。

鈴木巡査長は、「変化の速いネット環境に合わせ家族で定期的に話し合い、守れる範囲の約束を作ることが大切」とし、親が模範を示し、責任を持ってスマートフォンを管理するよう呼びかけました。



話し合ってルールをつくる様子

地域を支える委員に表彰状

6/17

行政相談委員としての長年の功績が評価

長年にわたり行政相談委員として地域に貢献してきた上長尾区やまだとしおの山田俊男委員に、中部管区行政相談局長表彰状が授与されました。総務省行政監視行政センターの向山達之さきやまたつゆき所長が役場を訪問し、表彰状を手渡しました。

表彰後の会談で向山所長は、委員のなりて不足は全国的な課題であることに触れつつ、委員活動の重要性と山田委員の長年の功績について語られました。行政相談委員は住民の相談を受け行政と連携する民間ボランティアで、山田委員は平成27年4月の就任以来、11年余りにわたり尽力されています。



左から藺田町長、山田委員、向山所長

夏休みは音戯の郷で喫茶を楽しもう！



「かわねじかん」は、7/23～8/24の期間中の月・木曜のみの営業です（10:00～15:30）

奥大井音戯の郷ラウンジのチャレンジショップに、おいしい川根茶が楽しめる駄菓子屋「かわねじかん」がオープンします。町内5つの茶農家のお茶を飲み比べできるほか、パンや惣菜の販売も予定しています。

チャレンジショップではこのほか、アイスが楽しめる喫茶店として、「Senzu Friends フローズンフルーツショップ」も出店しています。この夏は、音戯の郷で涼をお楽しみください。

チャレンジショップとは

起業を目指す人が試験的に営業するための店舗。
町では、奥大井音戯の郷ラウンジを貸し出しています。

【問】産業振興課 ☎0547(56)2226

株式会社電翔と星空活用で連携協定

6/18

地域活性化へ星空保護区認定を目指す

町では、地域活性化に向け、美しい星空を地域資源として活用し、星空保護区認定の取得を目指しています。認定は、米国のNPO法人ダークスカイ・インターナショナルが実施しており、認定基準が非常に高く、町単独での取り組みが難しい状況です。静岡市の株式会社電翔^{でんしょう}は、星空や宇宙関連ビジネスを通じた地域振興への貢献を理念としており、町と包括連携協定を締結しました。

今後は、施設活用や体験プログラムの実施、認定取得に向けた活動などで連携し、地域の魅力向上と産業振興を図ります。



協定を交わす園田町長と森裕芳代表取締役

藤枝順心高校で輝く町出身選手

6/20

6/21

瀬平区出身・瀧尾菜乃さん、東海大会制し全国切符獲得

磐田市で開催された全国高等学校総合体育大会サッカー競技東海大会で、藤枝順心高校サッカー部が東海地区1位となり、全国大会出場を決めました。その喜びの輪の中に、瀬平区出身の同校3年生、瀧尾菜乃^{たきお なな}さんの姿がありました。

21日に行われた三重県代表の青山高校との試合では、フル出場し何度も左サイドから攻撃のチャンスを作り、見事に1アシストを記録しました。

全国大会は、7月27日から31日まで開催されます。瀧尾さんは「どんな立場でもチームのために全力を尽くし、全国優勝を目指します」と意気込みを語り、笑顔で大会に臨む決意を示しました。



青山高校戦後半、得意の左足でシュートを放つ



藤枝順心高校サッカー部のメンバー（瀧尾さんは前列左から3人目）

これまでの歩み

瀧尾さんは、3歳年上の兄の影響で小学時代からサッカーを始め、中川根サッカースポーツ少年団に入団。中学時代は中川根中学校に通いながら、藤枝順心SCジュニアユースに所属し、サッカーに打ち込んできました。

高校進学後は強豪校の藤枝順心高校でディフェンダーとして活躍。1年生時には国体メンバーにも選ばれ、確かな実力を示し、自身の強みを「左足からのロングキック」と語ります。

新茶を味わう川根茶まつり

6/21

生産者がふるまう新茶を味わうイベントを開催

「今年のお茶を味わう」をテーマに、川根お茶街道推進協議会主催のイベント、川根茶まつりが開催されました。生産者が自らふるまう新茶を楽しめる毎年好評のイベントで、参加者は家で飲むお茶と違う味わいや、同じ川根茶でも異なる風味を実感しました。地元飲食店のマルシェやステージもにぎわいを添え、参加者からは、「生産者と話せるだけでなく、直接淹れてもらったお茶を飲むのは特別感がある」と好評を博しました。同協議会は、川根地域12団体が連携し川根茶の魅力発信に努めています。



生産者がふるまう新茶を笑顔で味わう

防災力向上に町外企業からの支援

6/22

企業版ふるさと納税を活用し、緊急トイレ600回分の寄付を受領

町は、企業が地方自治体に寄付し、税制優遇を受けながら地域活性化を支援する「企業版ふるさと納税」制度により、スマイルキッズ株式会社(本社：大阪市)から災害用緊急トイレ600回分の寄付を受けました。

誰もが安心して暮らせるコミュニティづくりに役立ててもらうことを目指した同社が、全国の自治体を対象に緊急トイレの寄付を計画し、受領を希望した当町との間で今回の寄付が実現しました。

寄贈品は町の避難所に備蓄し、災害時のトイレ環境の整備に活用することで、住民の安心確保へつなげていきます。



緊急トイレの寄付を受領する危機管理課職員

手揉み茶技術継承の功績者を表彰

6/24

花村昇氏、長年の茶業貢献を評価

公益社団法人茶業会議所にて茶業功績者表彰式が執り行われ、静岡県茶手揉保存会の花村昇^{はなむらのぼる}さんが上川会頭から表彰を受けました。花村さんは長年にわたり手揉み茶技術の研鑽と継承、地域茶業の発展に尽力してきました。さらに、フォーレなかかわね茶茗館で毎月開催される「川根茶を楽しむ会」では手揉み保存会のブースにて呈茶を担当し、来訪者に川根茶の魅力を伝え続けています。その温厚な人柄と茶への深い敬意は、地域茶業のイメージ向上に大きく貢献してきました。表彰式では功績が改めて称えられ、今後の茶業発展への期待も寄せられました。



表彰を受ける花村さん(左)と上川会頭(右)